

修理工事こぼれ話②① 楼門の輪郭

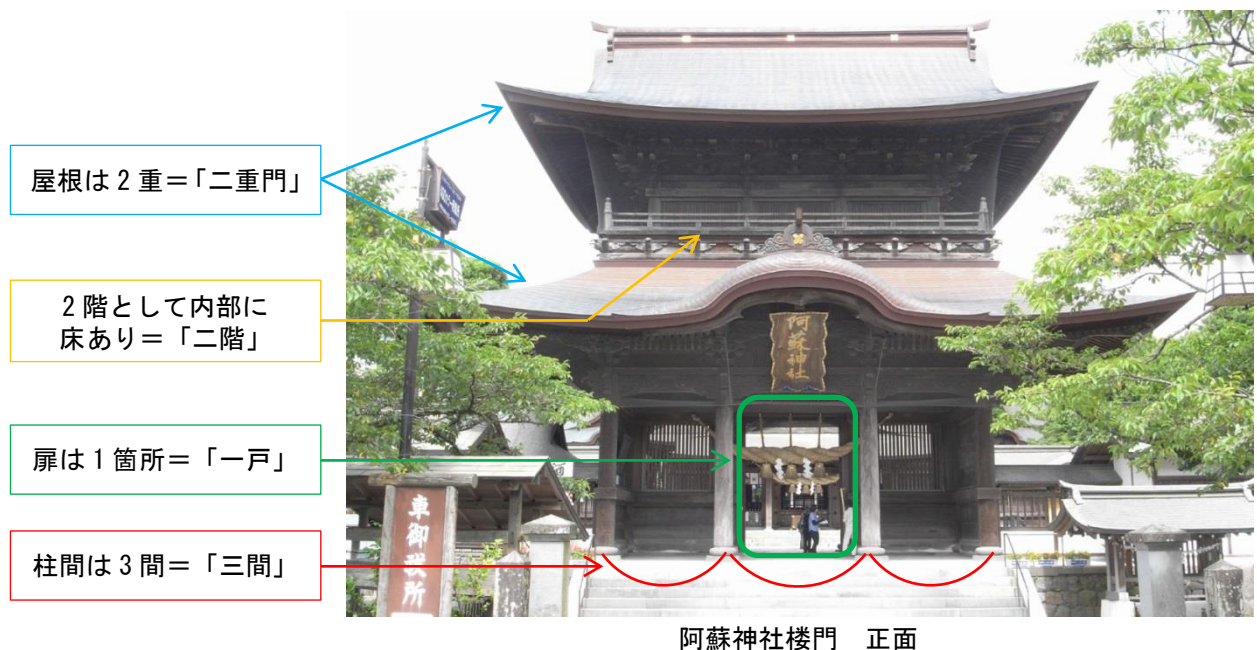
4月より楼門の組立に向けた工事に入っていきますが、阿蘇神社の楼門はどのような特徴を持った門なのでしょう。阿蘇神社楼門は国指定重要文化財ですが、その中には同じような形式の門が何棟かあります。それらと阿蘇神社楼門を比べてみたところ、同じような形式と言えど、全体の大まかな形も他のものとは異なる特徴があることがわかりました。今回は全体の大まかな形として、楼門正面の輪郭の特徴について紹介します。

1. 同じ形式の門について

『国宝・重要文化財建造物目録』によると、阿蘇神社楼門は「三間一戸二階二重門」という建物形式になります。この形式の意味を説明しますと、「三間」(さんげん)とは、正面から見た時に柱と柱の間隔が3つあるということです。そして、その柱と柱の間隔のことを柱間(はしらま)と言います。「一戸」(いっこ)とは、その3間ある柱間のうち、扉のある柱間の数を表しています。阿蘇神社楼門は中央に1組の扉があるため、「一戸」という表記になっています。「二階」(にかい)とは、上層に床が張られていることを表しています。「二重門」(にじゅうもん)とは、屋根が四周に上下2層かかる外観をもつ門のことを表しています。ちなみに、現代では楼門というと、上下2層にはなっていますが下層には屋根をつくらず柱上に縁を組んで上層をつくる門のことを指します。そのため、阿蘇神社の門は、名前は「楼門」なのですが建物形式でいうと「二重門」ということになります。以前は二重門も楼門も区別なく楼門と呼んでいた名残のようです。



楼門の例(健軍神社楼門)
下層には屋根がない形式です。

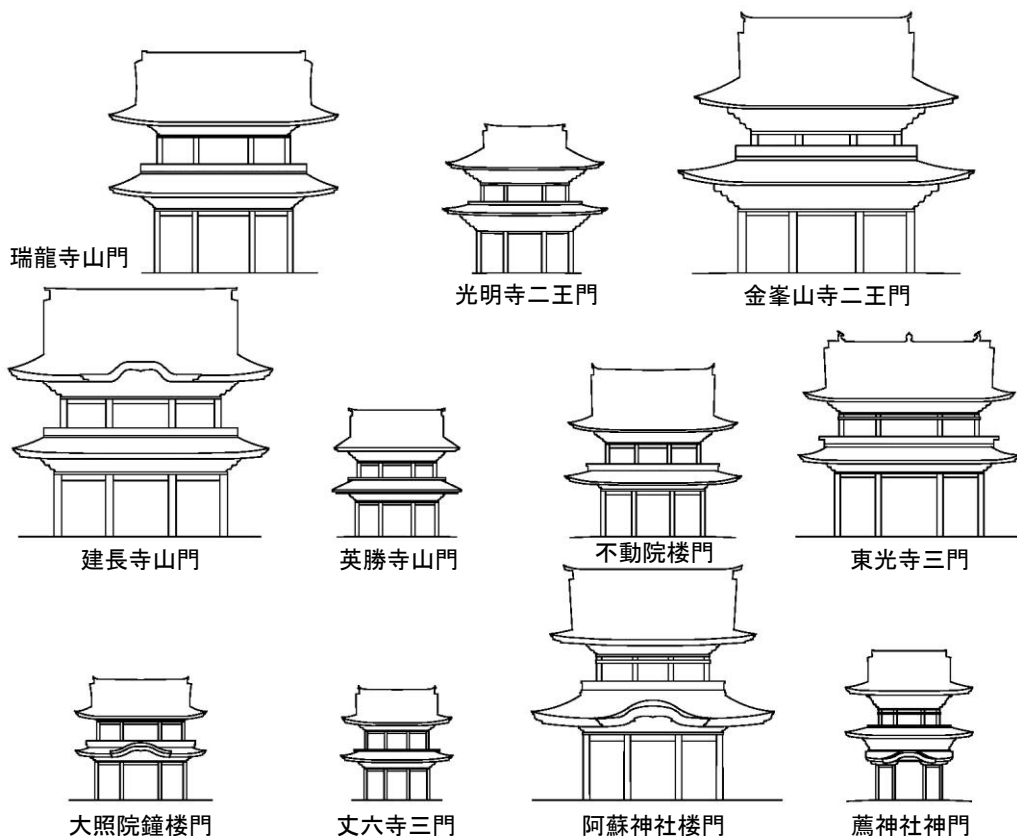


阿蘇神社楼門 正面

現在、阿蘇神社楼門と同じく三間の二重門は、阿蘇神社楼門を含めて 13 棟が国指定重要文化財に指定されており、そのうち 3 棟が国宝に指定されています。そのうち、広島県にある不動院楼門は、阿蘇神社のものと同じく建物形式は二重門ですが名称は楼門となっています。そして、大分県にある薦神社神門は阿蘇神社のものと同じく神社の門であり、残りの 11 棟は寺院の門となっています。これらの三間の二重門のうち、輪郭がわかる資料を入手できなかった延暦寺文殊楼と萬福寺三門以外の 10 棟の輪郭と、阿蘇神社楼門の輪郭を比べていきます。

国指定重要文化財 三間二重門一覧

区分	都道府県	建物名称	建築年		建物形式
国宝	富山	瑞龍寺山門	文政元	1818	三間一戸二重門
国宝	京都	光明寺二王門	宝治2	1248	三間一戸二重門
国宝	奈良	金峯山寺二王門	康正2	1456	三間一戸二重門
重要文化財	神奈川	建長寺山門	安永4	1775	三間一戸二階二重門
重要文化財	神奈川	英勝寺山門	寛永20	1643	三間一戸二階二重門
重要文化財	滋賀	延暦寺文殊楼	寛文8	1668	三間一戸二階二重門
重要文化財	京都	萬福寺三門	延宝6	1680	三間三戸二階二重門
重要文化財	広島	不動院楼門	文禄3	1593	三間一戸二階二重門
重要文化財	山口	東光寺三門	文化9	1812	三間三戸二階二重門
重要文化財	山口	大照院鐘楼門	寛延3	1750	三間一戸二階二重門
重要文化財	徳島	丈六寺三門	室町後期	1467-1572	三間三戸二階二重門
重要文化財	熊本	阿蘇神社楼門	嘉永3	1850	三間一戸二階二重門
重要文化財	大分	薦神社神門	元和8	1622	三間一戸二重門

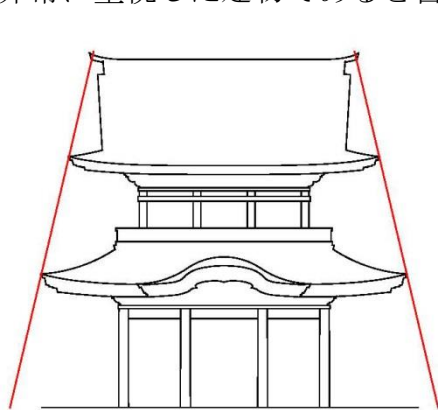


国指定文化財 三間二重門正面の輪郭（縮尺 600 分の 1）

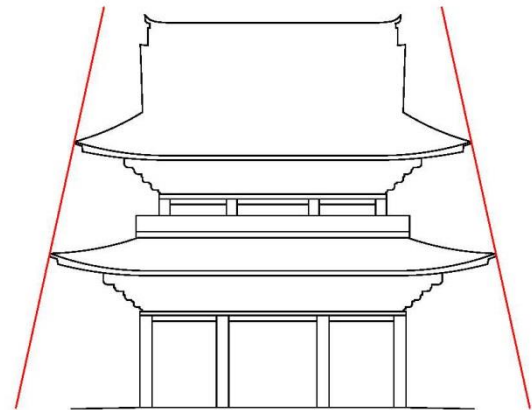
2. 阿蘇神社楼門の特徴

①上がすぼまった形である

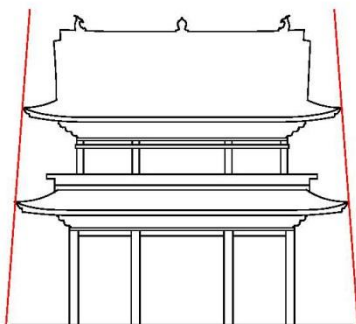
上層屋根と下層屋根の端部を図のように赤線で結ぶと、阿蘇神社楼門では家にある踏み台の側面のような上がすぼまった形になります。金峯山寺二王門の線は比較的似た角度になりますが、残りの9棟はほぼ垂直に近いものになります。中には、下層の屋根のほうが小さく、下がすぼまる線になるものもありました。赤線が上がすぼまった形になりますと安定感を与える形となり、赤線の特徴のみで言いますと、阿蘇神社楼門は安定感を非常に重視した建物であると言えます。



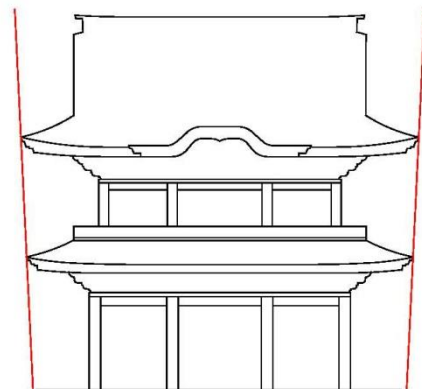
阿蘇神社楼門



金峯山寺二王門



東光寺三門

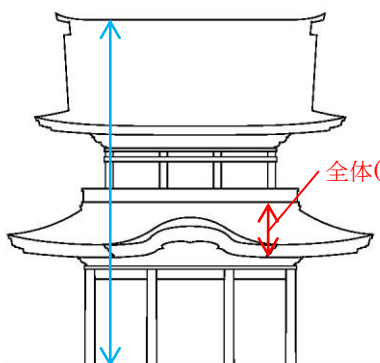


建長寺山門

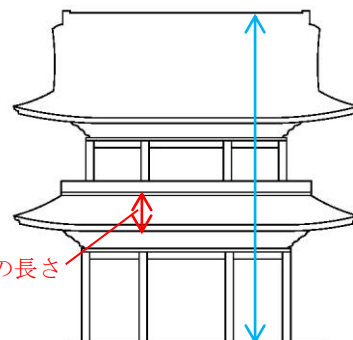
(縮尺 400 分の 1)

②下層屋根が高い

下図の赤矢印を青矢印で割ると、全体高さにおける下層屋根高さ方向の長さの割合がでます。阿蘇神社楼門ではこの値が 16%でしたが、他の 10 棟の平均値は 9%でした。10 棟のうちこの値が一番大きかった建物でも 11%でしたので、下層屋根の高さ方向の長さが大きいことは、阿蘇神社楼門の大きな特徴と言えます。



阿蘇神社楼門

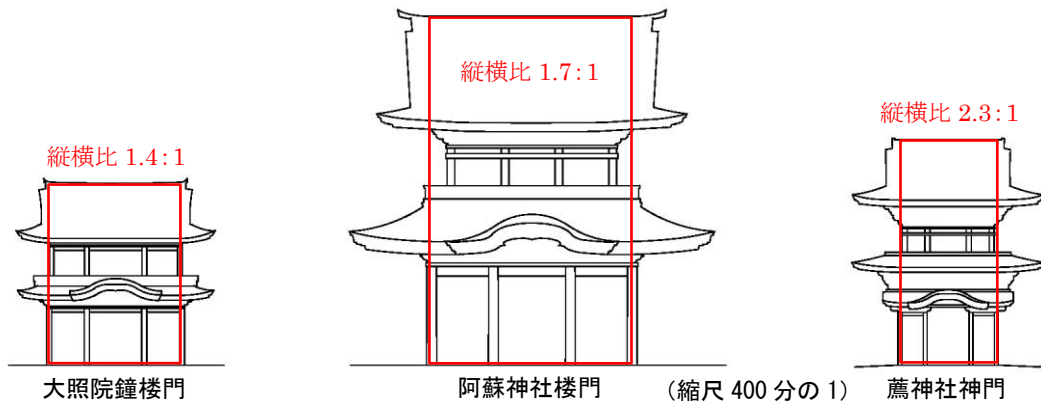


瑞龍寺山門

(縮尺 400 分の 1)

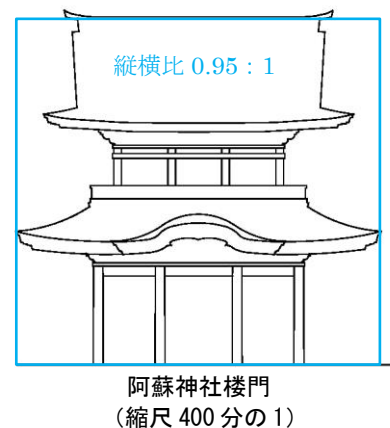
③全体が高い

下図の赤線のように、下層柱間全体の長さを横幅とし全体高さを縦長さとする長方形を描きます。この長方形がより縦長ですと建物全体にスリムな印象が与えられ、正方形に近くなりますと安定感のある印象が与えられます。阿蘇神社楼門は赤線長方形の縦横比が 1.7 : 1 でしたが、ほか 10 棟の平均値は 1.6 : 1 でした。赤長方形で言いますと、阿蘇神社楼門は若干縦長で若干スリムな印象を与えていると言えます。



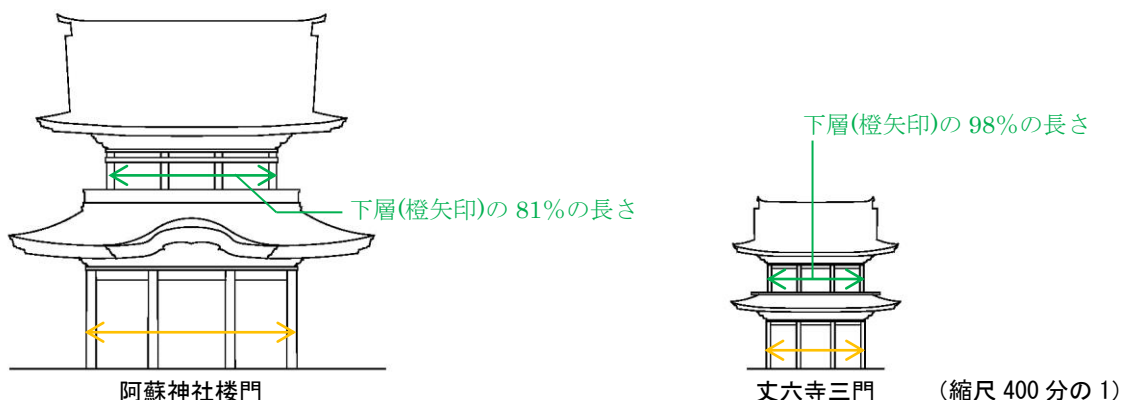
④下層屋根幅が長い

下図の青線のように、下層屋根横方向の長さを横幅とし全体高さを縦長さとする長方形を描きます。③のと同じように、この長方形がより縦長ですと建物全体にスリムな印象が与えられ、正方形に近くなったり横長になったりしますと安定感のある印象が与えられます。阿蘇神社楼門は青線長方形の縦横比が 0.95 : 1 あり、ほか 10 棟の平均値は 0.96 : 1 でした。青長方形で言いますと、阿蘇神社楼門は若干安定感のある印象を与えているといえます。



⑤上層柱間が小さい

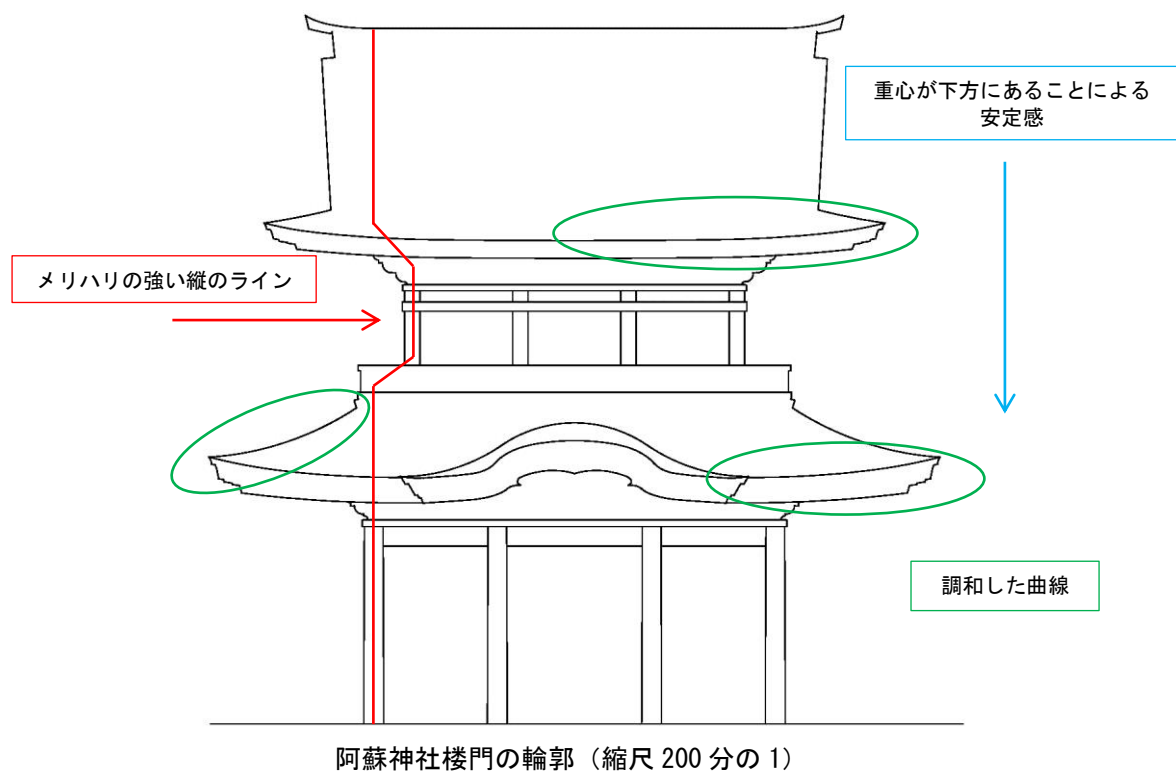
下図の橙矢印を緑矢印で割ると、下層柱間全体長さにおける上層柱間全体長さの割合が得られます。阿蘇神社楼門ではこの値が 81% でしたが、他の 10 棟の平均値は 93% でした。10 棟のうちこの値が一番小さかった建物でも 85% でしたので、上層柱間全体の長さが比較的小さいことは、阿蘇神社楼門の大きな特徴と言えます。



3. 阿蘇神社楼門の輪郭

5点挙げた阿蘇神社楼門の特徴について述べた2. では、①④は安定感に関係した特徴であり、③はスリムな印象に関係した特徴と分類しました。②と⑤も分類していくと、②の特徴は、この高さに大きな下層屋根があることによって見た目に感じる重心がより下方になりますので、①④の特徴と合わせた結果、安定感に関係した特徴であるといえます。⑤の特徴は、③のスリムな印象に加えて⑤の特徴によって幅が絞られる箇所ができることで縦のラインに強い遠近感が生まれ、よりスリムな印象が強くなります。そのため、⑤の特徴もスリムな印象に関係した特徴であるといえます。

以上の特徴から、阿蘇神社楼門の輪郭は、安定感もスリムな印象もどちらもあわせ持っていないながら、それらが絶妙に調和し合っているとと言えます。①～⑤までの特徴のうち、平均的であるのは④のみであるため、阿蘇神社楼門は国指定重要文化財の中では個性的な形状であると言えます。しかし、個性的な形状だからといってカッコ悪いとか美しくないというわけではなく、非常に整った比率の輪郭をしていると思います。また、柱などの部材の太さや軒の反りなどの曲線も逸脱することなく溶け込んでいます。この独自の形状を建物としてまとめた水民元吉棟梁の力量や、新しい美的感覚を感じさせます。



以上、楼門の正面輪郭について見てきました。建物の輪郭はその建物の印象に大きく影響する要素です。阿蘇神社の建物は、彫刻などの細部も凝っていてとても興味深いですが、輪郭などの全体としてどうかという点も非常に興味深いものです。楼門の修理完了まであと5年ありますが、完了した暁には正面から眺めてみてください。(石田 陽是)

参考文献

- 大岡實『日本の建築』中央公論美術出版,1967
- 『国宝・重要文化財建造物目録』文化庁文化財部参事官(建造物担当),2012
- 坂本功 総編集『図説 日本木造建築事典』朝倉書店,2018
- 紹介した建物の修理工事報告書等